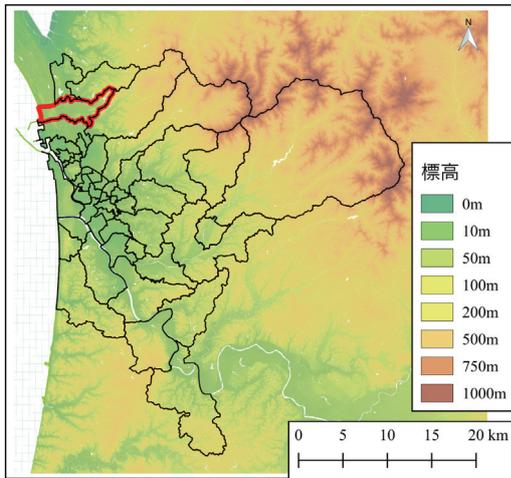


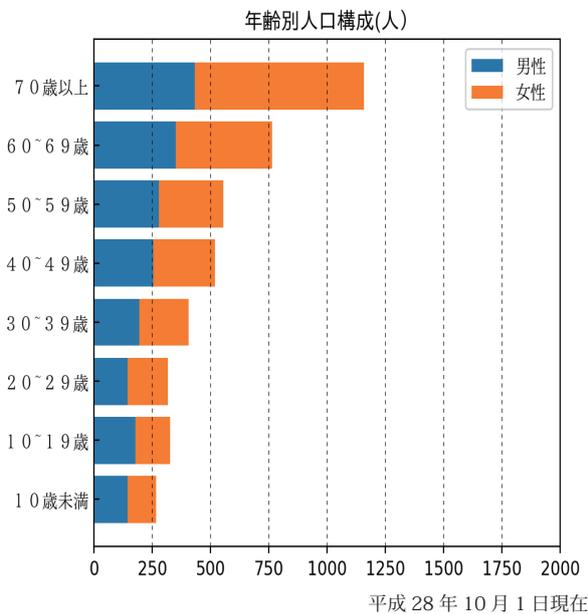
04：下新城小学校（旧下新城小学校）区

位置図



1 居住者の現況

人口	4,343 人
世帯数	1,623 世帯
65 歳以上人口	1,541 人
10 歳未満人口	264 人



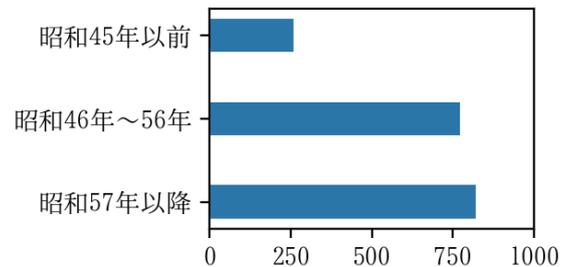
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	1851
非木造建物	113

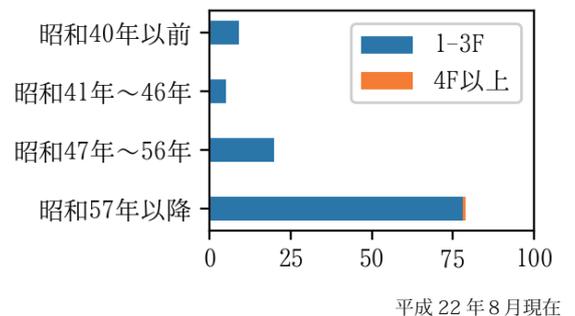
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	820
昭和46年～56年	773
昭和45年以前	258



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	78	1
昭和47年～56年	20	0
昭和41年～46年	5	0
昭和40年以前	9	0



自然的・社会的基指標

秋田市北部に位置し、西端は日本海に面し、東西およそ 10km におよぶ細長い区域である。学校区の西部を南北に国道 7 号、JR 奥羽線が通っており、建築物が集中している。西部の丘陵部には集落が点在している。中央部は水田として利用されている。学校区東部には急傾斜地等の危険箇所が分布する。人口構成は低年齢者層ほど比率が低く、65 歳以上の高齢者層は約 35% と割合が高くなっている。昭和 57 年以降の建物は全体の約 46% であり、耐震建物率が比較的高い地域である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	新城川		
浸水面積 (%)	22.1		
最大浸水深 (m)	ランク 5		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	14	沖ノ窪、右馬之丞、下向、笠岡、中坪、槻の木、家ノ前、猿田沢、蚕沢、熊野田、堰根 他
土石流危険渓流	2	下新城岩城沢 他
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	10	中坪、下向、右馬之丞 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	(該当なし)	
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.90)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	29	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	3.9	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	5.5	
最大浸水深 (m)	14.4	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	8
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	12

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	2
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	1

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	0
大学・短大・高専	1
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	67
防火水槽 (箇所)	10
消防車台数 (台)	12
消防ポンプ数 (台)	4
消防団員数 (人)	98

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	3
土砂災害	6
地震	5
津波	0
福祉避難所	4
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	土崎消防署
管轄警察署	秋田臨港警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	3
最寄りの救急告示病院	秋田厚生医療センター
自主防災組織数	25

地震時の危険要素

新城川の氾濫により、中流域では河川の周辺で、国道 7 号の東側の平野部では広い範囲で浸水のおそれがあり、下新城小学校区の約 22% が浸水することが予測されている。国道 7 号の東側に沿った地域の一部では 2 階以上まで浸水する可能性がある。

小学校区の東部の丘陵地には土砂災害危険箇所が多く分布するが、現時点では土砂災害警戒区域等の指定には至っていない。

小学校区の西部 (概ね国道 7 号より西) と東部の丘陵地に対し、中央部 (低平地) ではより揺れやすい。液状化の危険度が比較的高い。小学校区の西部沿岸では津波による浸水の恐れがある。

防災上の課題と対策

下新城小学校区の西部沿岸地区には秋田県立大学が立地しており、平地と丘陵の境界部に集落が点在する農村地域となっている。国道 7 号に沿って、建物と人口が集中している。人口構成は、50 歳以上の人口の割合が高い。国道 7 号沿いには、災害時要支援者関連施設も多い。地域内の高齢者をはじめとする要支援者の災害時の避難などにあたっては、支援者のみならず近隣住民等の協力が必要となる状況も考えられる。学校区内の東部と西部では地域特性に幅があることにより災害時の状況が地区毎に異なる可能性がある。

一部の避難所 (避難場所) では、新城川の氾濫浸水想定区

域内（あるいは、避難経路が想定区域内を通過する）であることから、集落単位や事業所単位で災害種別ごとに地域外への退避、高層階のある建物への垂直避難など細かい災害対応が必要となる。災害時に住民自身が的確な判断を行うことができるよう防災訓練等の機会を有効に活用することが重要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
下新城小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	12,110 人
秋田北中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	4,855 人
下新城地区コミュニティセンター	○	x	○	○	x	x	48 人
秋田北中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	553 人
北部公民館	○	x	○	x	x	x	229 人
下新城小学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	304 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム 金寿園	下新城笠岡字川向 28 番地	018-857-3130
介護老人保健施設 ニコニコ苑	下新城中野字琵琶沼 138 番地 1	018-873-2525
特別養護老人ホーム 海松園	下新城中野字街道端西 233-47	018-873-3505
障害者支援施設 ほくと	下新城中野字街道端西 11-1	018-873-7801

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

